

なぜ、「市町村合併」を検討するの？

市町村合併を検討する背景

相模原市、城山町、津久井町及び相模湖町の1市3町は、住民の日常生活圏の広域化や少子高齢化の急速な進展、厳しい財政状況などの社会経済情勢の大きな変化に適切に対応し、住民サービスの維持・向上を目指して行政基盤の充実・強化を図るとともに、自主性・自立性を持った地方分権時代にふさわしい個性あるまちづくりを推進するための有効な手段の一つとして市町村合併の検討を進めています。

市町村合併を検討する背景

広域的課題への対応

環境保全対策や水資源対策、観光振興などの広域的な調整や取り組みを必要とする課題に対して、より効果的な施策の展開が求められています。
また、豊かな自然環境を保全し、次世代に引き継いでいくとともに、より有効に活用していくことが求められています。

厳しい財政状況への対応

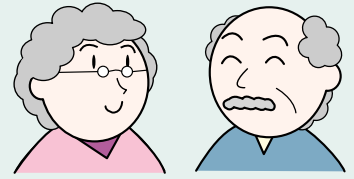
国が進める国庫補助負担金の削減や地方交付税制度の見直しなどに伴う厳しい財政状況の中、より効果的・効率的な行政サービスを提供する行財政体制を構築する必要があります。

自立分権都市を目指して

地方分権の進展に伴って、住民の日常生活に最も身近な市町村の役割は、これまで以上に重要となっており、自主性・自立性を持ったまちづくりの推進が求められています。
特に相模原市は中核市として、周辺市町との連携を図り、地域全体として発展していくための役割と責任が求められています。

少子高齢社会の到来

本格的に到来する少子高齢社会への対応が求められています。



合併のメリットって、なに？

市町村合併の検討の意義

城山町・津久井町・相模湖町

安定的な行政サービス

◆福祉、教育、ごみ処理、消防など従来の行政サービスを長期的かつ安定的に実施することが可能になります。

行政サービスの向上

◆中核市になることにより、行政サービスの効率化が図られるとともに、専門職員等の対応による高度できめ細かなサービスを受けることができます。

公共施設等の利用

◆相模原市にある公共施設等の利用が可能になり、利便性が向上します。

環境の保全と活用

◆多くの住民の力により、水源の森づくりや水とみどりの保全・活用が進められます。

地域の活性化

◆市になることによるイメージアップにより、地域の活性化が期待できます。



相模原市

地域資源の活用

- ◆津久井地域が持つ自然・文化・歴史等の地域資源が、身近なものになります。
- ◆豊かな地域資源が増えることにより、教育、スポーツ等の幅や自然保護・レクリエーションなどの市民活動のフィールドが大きく広がります。

都市の魅力

- ◆自然と共生する都市としてのイメージアップが期待できます。

公共施設等の利用

- ◆津久井地域にある公共施設等の利用が可能になり、利便性が向上します。

新たな可能性

- ◆市域が広がることにより、新たなまちづくりの可能性が広がります。

中・長期的な視点からの効果

次世代に誇れるまちづくり

◆「都市機能」と「水とみどりと文化」とが相互に補完し合い調和することにより、次世代に誇れる理想的な都市が誕生します。

新たな産業・観光の創造

◆自然と共生する都市としての魅力に加え、さがみ縦貫道路、中央自動車道など広域交通軸のインターチェンジを有する都市として、新たな産業・観光の創造が期待できます。

広域的な観点からのまちづくり

◆道路や公共施設の整備、土地利用、産業・観光振興、環境保全など様々な場面で、長期的・広域的な観点にたった新たなまちづくりの展開が可能になります。

パートナーシップによるまちづくり

◆70万市民の地域間・世代間を越えたパートナーシップによる新たなまちづくりの可能性が広がります。

地域の活性化

◆豊かな自然と共生する新たな都市としてのイメージアップに伴い、産・学・官の連携などによる地域の活性化が期待できます。

都市内分権の推進

◆都市内分権の推進と地域の個性を生かして、地方分権時代に対応した新たなまちづくりを進めることが可能となります。

教育の場の広がり

◆津久井地域の自然を生かした教育や相模原市の図書館・博物館等を生かした教育など、相互に教育の場が広がります。

行財政の効率化

◆市町の管理部門（企画・人事・財務等）や別々に実施してきたごみ処理や消防などの業務を統合することにより、行財政の効率化が図られます。

市町村合併シンポジウムでお寄せいただきましたご質問にお答えします。

1面でお知らせいたしましたとおり、相模原・津久井地域合併協議会主催の「市町村合併シンポジウム」を開催いたしましたところ、会場にお越しいただいた皆様から市町村合併に関するご意見やご質問を多数いただきました。時間の関係でお答えできなかったご質問に対して紙面にてお答えさせていただきます。なお、今回掲載しきれなかったご質問に対するお答えは、次号の「合併協議会だより」に掲載する予定です。ご質問につきましては、類似のものをとりまとめ要旨としておりますのでご了承ください。

合併するとどうなるか

Q 合併で津久井郡3町のサービスは良くなるのでしょうか、現在津久井郡にある保健所、土木事務所、福祉事務所（いずれも県の組織）はなくなって、津久井郡の人たちへのサービスが低下するのではないかと心配しています。

A <小川> 相模原市は、中核市及び保健所政令市であるため、津久井郡3町と合併した場合、現在3町の区域で神奈川県が行っている事務のうち、中核市の事務や保健所の事務、福祉事務所の事務などは、新市に移管されることとなります。移管にあたっては、従来県が行っていたサービス水準を落とさないように調整を進めてまいりたいと考えております。

Q 相模原市民の市民税、固定資産税、保険料などが上がることになるのではないかと心配しています。その意味で、議員、職員の人数、給与/報酬はどうなるのか知りたい。3町の職員の給料が市職員と同じになるなら、合併の意味

はない。人件費を減らしてこそ合併のメリットが出るはずだ。

また、経費削減効果228億円とのことだが、実現性のある数字なのか。

A <小川> 議会の議員については、報酬等は相模原市の制度に統一することとなりますが、現在1市3町合計で92人の議員が、合併後は51人となり、大幅に減少します。また、3町の町長、助役、収入役などの特別職が全員失職します。3町の一般職の職員は、すべて新市に引き継ぐこととなりますが、町の総務や企画部門が新市の本庁組織に統合され、職員数の削減が可能となると考えます。また、職員の給与については、適正な水準となるよう調整してまいります。このように合併によって効率的な行財政運営が図られることとなります。なお、合併により市民の税金が高くなることはありませんが、保険料等については、合併の有無にかかわらず定期的に見直し等を行っておりますので、この中で適正な負担が決まることとなります。

次に経費削減効果の実現性についてですが、合併に伴い、総務や企画などの管理部門の統合やスリム化を進めるとともに、引き続き、事務事業の見直しや委託化を推進することなどにより、経費の削減ができるものと考えています。

Q 市の木・花・鳥などについて・・・新市の将来ビジョンとして「水源地域を含む自然豊かなまち」が主張されている。新しい市の顔となるものと考えて、編入合併だからといってそのまま相模原市のものを引き継ぐ必要もなく、合併後も議論の機会があっても良いのではないかと。

A <小川> 市の木や花、鳥など、市のシンボルとなるものは、合併時には相模原市のものに統一することとなりますが、新市の実情にそぐわなくなるものなど、改定の必要があるものについては、ご意見のとおり、新しい市において検討すべきものと考えております。